

自社農園で障害者携わり生産

サツマイモのスイーツ3種類

ミールケアグループの店舗できょう発売

給食受託サービスなどのミールケア(長野市)は7日、自社農園で育てたサツマイモを原料にしたスイーツ3種類を、グループの菓子庵「まつりや」(上水内郡信濃町)から発売する。サツマイモは5月、障害者が生産に携わったことを示す日本農林規格(JAS)



サツマイモを使ったミールケアのスイーツ

の「ノウフクJAS」の認証を受けた。生産から加工、販売までを手がける6次産業化によって、持続可能な生産体制の維持を目指す。

紅はるかとは紅あずまの2種類を使用。紅はるかのは焼き芋とクリームを使ったシュークリーム(350円)、紅はるかのはブリュレとソフトクリーム(660円)、輪切りの紅あずま粒あんを包んだ団子(250円)を展開する。ブリュレとソフトクリームは、ミールケア本社敷地内のベーカリーショップでも扱う。

サツマイモは長野市と信濃町で栽培。今年は2種類で計約6トンを収穫し、うち8割をスイーツの原料に充てる。パート契約を結んだ障害者10人が生産に携わっている。田子美津子専務は「スイーツの売り上げが、雇用する障害者の給与となつて循環していければ良い」と期待している。